

JHTA 2015 Annual Conference *Colloquium 1*

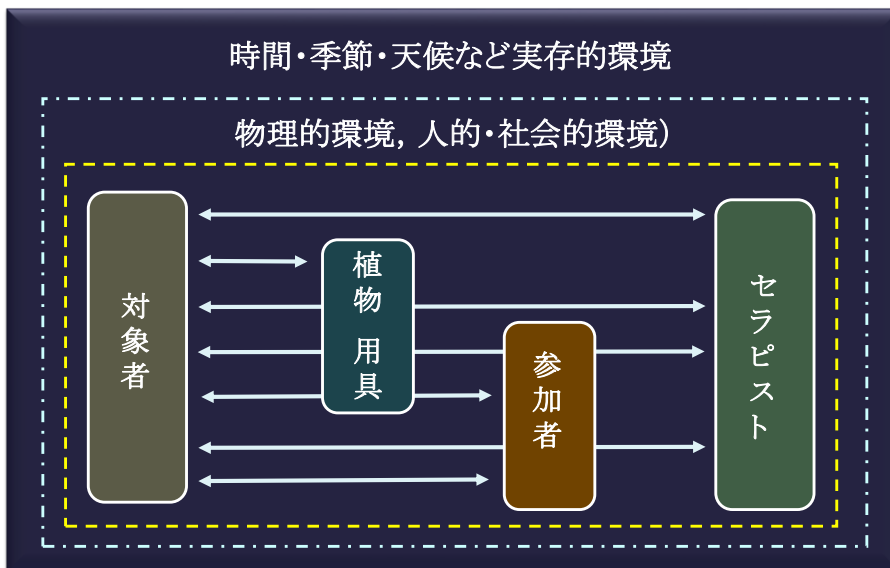


園芸療法における治療関係
The therapeutic relationship in horticultural therapy

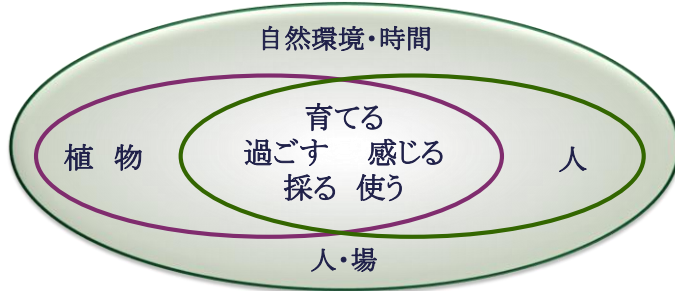


Hiroshi Yamane ; OTR, PhD
Chairman of Society of Human and Occupation-Life
Professor Emeritus of Kyoto University

園芸療法の治療・援助の構造



ひとのくらしと植物-activity analysisの視点から



- | | | |
|------|---|--|
| 植物 | 特性 | <ul style="list-style-type: none"> — 独立栄養を営む — 生物の食物連鎖の要 |
| 活動要素 | <ul style="list-style-type: none"> — 育てる — 耕す, 蒔く, 植える・・・(心身の相互性) — 過ごす — 植物の育ちを共に過ごす(実存的体験) — 感じる — みる, ふれる, かぐ, あじわう, きく(五感) — 採る — 植物の恵みを受ける(生活の基盤) — 使う — 食べる, 創る, 観る, 売る・・・(生活の広がり) | |

育てる - 耕す, 蒔く, 植える

土を掘り 砕き 耕し 均し
 種を蒔き 苗や球根を植える
 水を撒き 草を取る



身体活動 : 新陳代謝 ↑ 心身機能賦活 衝動の適応的発散
 育てる行為: 有用体験 自己尊重 自己評価 ↑



過ごす- 植物の育ちを共に過ごす

植物の生育 天候の変化
時の流れ 季節の移り変わり

実存的な受容体験: 予測して待つ 季節や時間の感覚
思い通りにならないものに合わせる





感じる-みる, ふれる, かぐ, あじわう, きく

植物と植物が育つ環境
五感(身体が受け取る現実情報)

感覚刺激: 気分転換 疲労回復 注意機能改善 情緒安定





採る - 植物の恵みを受ける

園芸作物の収穫



収穫する: 達成感 充足感 自己の有用体験 情緒の安定
 自我の保持・拡大 自発性 意欲向上 安心感



使う - 食べる, 創る, 観る, 売る...

園芸作物の利用



利用: 人間のすべての生活の基盤

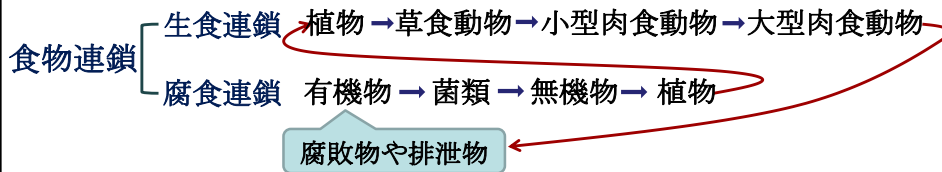


植物の特性

- 独立栄養を営む
- 生物の食物連鎖の要



光合成 生物 → 二酸化炭素 + 水 + 光エネルギー → ブドウ糖 + 酸素



ヒトにとって植物は → 栄養 酸素 水資源

植物の特性

- 独立栄養を営む
- 生物の食物連鎖の要



生物はすべて、水、無機塩、炭水化物、脂肪、タンパク質で構成
 個体の維持、成長には、栄養と酸素が必要
 その栄養と酸素は植物が光合成 (photosynthesis) により、太陽の光と
 水と二酸化炭素から作るブドウ糖と酸素
 生物のすべてはこの植物の光合成に始まる食物連鎖の世界の中
 にある
 植物の治療的利用においてこの厳然たる事実に勝る根拠はない

ヒトにとって植物は → 栄養 酸素 水資源

